PRESS RELEASE

独立行政法人国際協力機構
関西国際センター
2017 年 7 月 12 日

大阪発の水処理技術でラオスの水環境を改善

リサイクル担体(KIDS)による排水処理技術の現地適合性の確立を目指す

国際協力機構(JICA)は、「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」において株式会社アクリート(大阪府堺市、池田正博　代表取締役)が提案する「リサイクル担体(KIDS)による排水処理事業案件化調査」(ラオス)を採択しました。

経済成長や人口増加に伴う水環境悪化という課題に対して、提案技術であるリサイクル担体（KIDS）（注 1）を用いた排水処理技術を活用し、ODA 案件を通じて、排水規制強化に応じた排水処理施設の標準仕様化とその普及を通じて水環境改善を目指します。

他の処理技術に比べて発生汚泥量が少ないうえ、運転・維持管理費用が安く維持管理が容易です。

KIDS を使った排水処理施設

リサイクル担体

ラオス国立大学の実証実験候補地
（フードコートの既存腐敗槽）

今回、リサイクル担体を使った汚水処理技術に関する事業展開を進めるにあたり、ビエンチャンを中心に汚水処理技術の適用可能性調査や市場調査を実施したうえで事業計画を立案するとともに ODA 案件化に向けた計画立案を実施します。

なお、本調査は、我が国の中小企業を対象とした「中小企業海外展開支援事業～案件化調査～」(注 2)として実施され、今後の契約交渉を経て契約に至ったものから、順次調査を実施します。

（注 1）反応槽内に敷き詰める毛糸状のろ床担体（Kind Integrated Digestion Strand）

（注 2）案件化調査は、2012 年度から実施されており、今回は全国で 36 件が採択。

参考:(プレスリリース)案件化調査 2017 年度第 1 回公示の採択結果について
https://www.jica.go.jp/announce/notice/investigation/ku57pq00001yndld-att/investigation_170308_result.pdf

【本件に関する問い合わせ先】
JICA 関西　企業連携課　担当　中山
TEL　078-261-0397　e-mail：Nakayama.Shigehiko@jica.go.jp